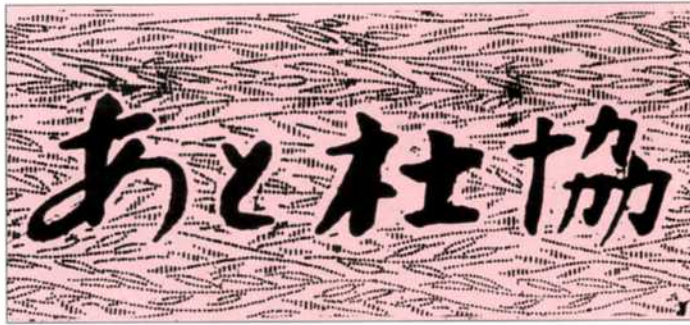




会報第125号

平成26年1月29日発行

阿戸地区社会
福祉協議会
広島市阿戸福祉センター内
電話 856-0294

阿戸町の世帯・人口

世帯数	948戸
人口	2,303人
男	1,130人
女	1,173人

(平成25年11月末日現在)



家内安全と五穀豊穡を願う「とんど」の炎

新年のあいさつ

阿戸地区社協 会長

松田 康憲

謹んで新年のお喜びを申し上げます。

今、広島市内の住宅団地では高齢化が進み、老いを迎えていると言われております。孤立、コミュニティの希薄化、個人

情報、交通等課題が沢山あるようです。

わが阿戸町もいずれ3人に1人が高齢者になるときが来ると思われ、ご多分にもれず、こういったことも心配されます。私達は、出来ることから少しずつでも取組んで行き、お互いの絆を大切に、健康で、安心、安全な阿戸町を目指して参りたいと考えます。

どうか今年もよろしく願い申し上げます。

敬老祝賀会

平成25年9月15日(日)

阿戸地区社協 事務局長

景山 尚文



初秋の1日、阿戸町在住の75歳及び、80歳以上のお年寄りを招待し、平成25年度の敬老会が盛大に開催されました。例年の如く、阿戸中学1年生が、玄関でお年寄りの胸にリボンを付け、会場までご案内しました。

来賓も10名と多数の方々がお祝いに駆けつけて下さり、又、途中から安芸区長も出席される等、敬老会に花を添えていただきました。敬老者を代表して1区の陰野蓮子様より謝辞があり祝賀式を終了しました。

式典終了後は祝賀会に移り、乾杯の後、料理に舌鼓をうち、



お酒もすすむ中、舞台では、有志による演芸が繰りひろげられ、唄あり、踊りありで大いに盛り上がりました。

老人クラブ連合会会長の真藤和夫様のご発声で「万歳三唱」の後、宴を開き、松田英子様のピアノ伴奏で「ふるさと」を合唱し「来年も元気で、又会いましょう」を合言葉に散会しました。

住民福祉講座

第1回…平成25年8月29日(木)
第2回…平成25年9月26日(木)

高齢者・ボランティア部会

奥作 恵美子

住民福祉講座が2回にわたって開催されました。

第1回は「振り込め詐欺、なりすまし詐欺、悪徳商法などに対する対処方法について学ぶ」と題し海田警察署熊野交番所長の長山誠様からお話と、DVDを見せて頂きました。

熊野管内でも2件、776万円もの被害があったと具体的な数字を挙げられ、驚くと共に他人事ではなく自分の事として考え、注意する事を再確認しました。

第2回は、広島市認知症アドバイザーの原純子様と広島市阿戸・矢野包括支援センターの職員の方から、「誰でもなりうる認知症を正しく知ろう」という内容で講演をしていただきました。

原様は認知症になられたお母様を10年間看取られました。が、「風呂嫌いになった」「明け方電話をしてくる」「物がなくなると騒ぐ」などから、お母様の



異常に気付かれました。見守りをされる中で、①初期の対応が大事 ②言っている事をオウム返しにすることで、相手の気持ちになる ③やさしく見守る ④隠さないで地域の人に知ってもらい協力を仰いだ等、体験工夫をされた事を話されました。日頃からの近所との絆がいかに大切かを深く考えさせられた講座でした。

しめ飾りづくり

平成25年12月11日(水)



広報部会

宇野 耕次

福祉センターホールで、中学2年生20名と指導されるお年寄りやお手伝いのPTAの皆様30数名で恒例の「しめ飾りづくり」が行われました。

お年寄りたちは事前に、わら打ちや材料調達をされ、予行演習をして本番にのぞまれました。しめ飾りの材料は、「だいたい」を除き全て町内の山や畑、田圃で調達したもの。市販のしめ飾りとは材料から違います。

生徒一人一人に手とり、足とりで指導された結果、1時間位で素晴らしい「しめ飾り」が出来上がりました。出来上がった「しめ飾り」は、生徒の家の玄関を飾り、新年に華を添えることでしょう。

この経験は何時までも故郷「阿戸」と共に生徒の心に残る事と思います。



阿戸中学校2年 岡田 遥

初めての体験。今年で何回目だろう。地域の方との交流も出来、たくさん事を教えてもらい、「阿戸町は最高の町だな」と改めて感じました。

今回はしめ飾り作り。難しかったけれど、やい甲斐があって面白かった。来年はいい年になるかな。

小学校の時、わらぼうちを作ったけど、そのときと違って結構力が要し、すごく大変だった。でも、親切に教えて下さって楽しかった。お店で売っているしめ飾りを見ると、「手作りかな」と思ってしまった。その大変さが分かって良かった。これから練習して、自分がおはあちゃんになった時、地域の方々には感謝の気持ちで一杯、いつか恩返しが出来たらいいなと思いました。

阿戸中学校2年 南 舞華

しめ飾りを初めて作った感想は、「力が入るな」でした。私は手で持っているだけでしたが、引っ張っていないといけないので、速く手が痛かったです。しかもそれを3回も繰り返したので、手が赤くない

それでも地域の方はときはきと作業され、あっという間に出来上がりました。出来上がったしめ飾りを見て「ほんものだな」と感動しました。地域の方々それぞれ、作り方が違って面白かったです。この作り方も、それぞれが立派なしめ飾りで、「阿戸だな」と感じさせてくれるものでした。

しめ飾り作りに参加して本当に楽しかったです。

中学3年生と

高齢者との交流会

平成25年11月13日(水)

児童・障がい児者部会

高山 義昭

今年の流行語大賞に選ばれた「お・も・て・な・し」。阿戸福祉センターにて、阿戸中学3年生20名と地域の高齢者31名との交流会が行われました。

この交流会は生徒が企画から準備まで担当し、高齢者を迎えホールまで案内して湯茶の接待もしてくれました。この行事を



行うに当たって生徒は車椅子体験や認知症予防などの事前学習もしました。

ホールには4ヶ所のテーブルが設けられ、それぞれ生徒や高齢者が座り、約1時間かけて生徒からの問いかけに古今東西の話が弾み、お年寄りの質問に中学生達が答えていました。最後に生徒はお年寄りを玄関まで送り、またテーブルの収納や清掃までやってくれました。

まさに東京五輪を呼び込んだ以上に「おもてなし」の心が充分感じられました。



阿戸中学校3年 中西 陸

高齢者との交流会の日、人生の大先輩であるおじいちゃん、おばあちゃんのお話を聞きました。昔の阿戸の暮らしなど。特に印象的だった事は、「子どもの頃の夢は？」という問いに対して、「昔は軍人以外に道はなかった。」という答えが返ってきたときです。とてもびっくりしました。終戦直後の話も少しあり、マッチなども全部配給だったということにも、びっくりしました。10月頃のことにも、びっくりしました。学校の休みは、稲刈りなどで学校も休みで、家の手伝いをしていました。学校が休みになるのはいいけど、昔は手伝い、今は勉強と、年代は違えど忙しかったんだなと思いました。

本当に貴重な話が聞けたと思います。僕も歳をとったら中学生などに、「昔はああだった、こうだった」というときがいずれ来るだろう。その日を楽しみに、もう数10年頑張っていこうと思います。



阿戸中学校3年 田中 沙絵良

「それでは交流会を始めます。」目の前には人生の大先輩があらわれました。恒例の「高齢者との交流会」、私はおじいちゃんと暮らしているのだから、私の方が聞き取りづらくて、「ん？何？」と聞き返された時、「あ、いつものようでは駄目なんだ。」と思いました。いつもおじいちゃんに話しかけられると、初めは普通に返事をしますが、「ん？」と聞き返されたいあると、あこしき立った声で返したいします。交流会を体験して、もう少しおじいちゃんを大切にしなければと思いました。今は高齢化社会です。みんなが高齢者を大切にしていかなければならないと思います。この交流会はとても良い事だと思います。私はこの体験でいろいろ学ぶ事が出来ました。ありがとうございました。

平成25年12月20日(金)、23日(月・祝)

ゆず湯



日本には、冬の戦(あかぎれ)を治すため、昔から冬至の日にゆず湯に入る慣わしがあります。12月の冬至前後の2日間、地域交流と施設の利用促進を目

的に阿戸福祉センターにて、ゆず湯によるお風呂の開放がありました。

柚子を浮かべたお風呂のほか、柚子のホットドリンクのサービスがあり、入浴後は皆さん集会所でくつろがれました。平素から福祉センターの入浴を利用されている高齢者の方々の他にも利用者があり、両日とも10、20名の方が柚子の香りですばいのお風呂を楽しめました。

私も23日に利用させていただきました。前日に動物園のカピバラ親子が気持ちよさそうにゆず湯につかる映像を見て癒された私ですが、今回の「ゆず湯」で改めて忘年会続きの疲れた体が癒されました。

(広報部会

小森 崇 記)



善意の灯

次の方々から、ご寄付をいただきました。この善意は住民福祉活動のため、有効に活用させていただきます。

ご厚志、まことにありがとうございます。

◆香典返しにかえて

川崎 武夫 様
竹岡 健次 様
門前 進 様
南 初男 様
反田 正之 様

◆見舞いの返礼にかえて

竹岡 健次 様
川崎 カズエ 様

◆一般寄付

阿戸町商工会 様
阿戸町女性会 様

直下地震対策

30年以内に、70%程度の確率で発生する、と言われている直下地震。中国新聞に次のような記事が載っていました。参考にしたものです。

「地震対策で一番大切なものは、人と人との繋がりが、絆です。普段から地域の人同士でコミュニケーションをとり、緊急時に助け合える状況にしましょう。お互いの役割を、自主防災組織などでしっかり話し合ひましょう。そしてスムーズな救出作業や、避難所の上手な運営に繋げる。結局、人を救うのは人なのです。」

さて、わが町は大丈夫だろうか？

●阿戸地区社協のつぎ

敬老会

施設(でじま・くにくさ)見学

第2回住民福祉講座

第2回福祉教育推進会議

共同募金運動開始(12/31)

くにくさ交流会

(小学3年生)

高齢者との交流会

(中学3年生)

金婚祝い慶祝訪問

【本年度申請者なし】

しめ飾りづくり練習

しめ飾りづくり(中学2年生)

(中学2年生)

部会長等会議

「あと社協」125号発行

毎週月曜日の午後、木曜日の

午前に、困りごとやボラン

ティア活動の相談に応じる

毎月(第2土曜日)配食サ-

ビスの実施

編集後記

福祉のことについて初めてかわったのは、60歳の定年を過ぎ、半年後の4月でした。

高齢化が進む中、学ぶことの多い日々です。

特に、「認知症」という言葉を度々聞くようになり、「物忘れ」と「認知症」の違いを認識すると共に、高齢者ひとり一人が様々な人生感、生活歴を持っておられることにも気が付きました。過去の生活だけではなく、現在おかれている状況をしっかりと汲み取り、喜びのころを持つてかわっていくことの大切さを知りました。

その人らしさを大切にしてあげたいものです。

予備軍を含むと800万人とも言われる「認知症」人口…。急速に進む高齢化を反映する数字を深刻に受け止めたいと思います。

こうした中、特に「笑顔」はどんな人のこころも癒すことができ、相手を分かつとうとする態度の表れであり、こころの温かさを伝え、相手のこころを聞かせてくれます。

また、コミュニケーションを円滑にするもつとも良い方法だと思います。

広報部会 出口 勝紀 記